

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師
奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞 詩篇117篇

* 賛 美 歌 92 : 1 あたらしきうたもて

**主をたたえまつれ 主はくすしきわざを 成し遂げたまえり。主はすくい
わざを ちからもて果たし。せかいのくにぐにに ちかちを告げたもう。**

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言：ミカ書7章18-19節

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 99 : 1 教えたまえ わが主よ

教えたまえ わが主よ わがゆくべきみ一ちを。

あさにゆうにみことばもてきかせたまえ わがみち。 アーメン

共同の祈禱 祈禱書5 使徒信条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。

われは聖霊を信ず。聖なる共同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。 アーメン。

献 金 (黒)教会活動 (赤)中高生オンライン修養会 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ヨシユア記24章14-27節(旧約聖書377頁)

説教 「決心の更新：健全な再出発」 L.スパーリンク宣教師

祈禱

* 賛美歌 74:1 主の道歩まん

わが主にゆるされ ころやすらぎ あたらしきちから
ころにみちて 主のみちあゆまん 主のみち アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にましますわれの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 67主イエスの恵みよ

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああ み栄えよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

古澤純一長老

「決心の更新：健全な再出発」

説教者：ローレンス・スパーク（キリスト改革派日本伝道会宣教師）

参照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 23、115、123、127

聖書箇所：ヨシュア記24章14-27節（新共同訳聖書、旧約聖書377頁）

今こそ、あなたがたは主を畏れ、真心と真実をもって主に仕えなさい。あなたがたの先祖が、ユーフラテス川の向こうやエジプトで仕えていた神々を取り除き、主に仕えなさい。もし、主に仕えることがあなたがたの気に入らないのなら、ユーフラテス川の向こうにいた先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを今日、選ぶがよい。しかし、私と私の家は主に仕える。」

民はこう答えた。「主を捨てて、他の神々に仕えることなど、私たちがするはずがありません。私たちの神、主こそ、私たちと私たちの先祖を、エジプトの地、奴隷の家から導き上げてくださった方であり、私たちの目の前でこれら数々の大いなるしるしを行い、私たちの歩んだすべての道で、また私たちが通って来たすべての民の中で、私たちを守ってくださった方です。主は、この地に住んでいたアモリ人をはじめ、すべての民を追い出してくださいました。私たちがまた主に仕えます。この方こそ私たちの神だからです。」

ヨシュアは民に言った。「あなたがたは主に仕えることができないであろう。この方は聖なる神であり、妬む神であって、あなたがたの背きと罪をお赦しにならないからである。あなたがたが主を捨てて異国の神々に仕えるとき、主はあなたがたに幸いを与えた後でも一転して災いを下し、あなたがたを滅ぼし尽くされる。」

民はヨシュアに言った。「いいえ、私たちは主に仕えます。」

ヨシュアが民に向かって、「あなたがたが主を選び、主に仕えるということの証人は、あなたがた自身である」と言うと、民は「私たちが証人です」と答えた。「ならば今、あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、あなたがたの心をイスラエルの神、主に向けなさい。」民はヨシュアに向かって、「私たちは私たちの神、主に仕え、その声に聞き従います」と言った。

その日、ヨシュアは民と契約を結び、シェケムで掟と法を定めた。ヨシュアはそれらの言葉を神の律法の書に記し、大きな石を取って、主の聖所にあるテレビンの木の下に立て、すべての民に向かって言った。「見よ、この石が私たちに対する証人となる。この石は、私たちに語られた主の言葉をすべて聞いたからである。この石は、あなたがたが神を欺くことのないように、あなたがたに対する証人となる。」

（以上が神様のみことばです。主に感謝します。）

説教の中心的主張点：健全な再出発は、自分の歩みを振り返りながら、主の恵みに頼る姿勢を再確認して、主の道に従うことを再決心することによる。

序説：日本宣教師着任から40年経ったこの頃思うこと。

妻ルース、赤ちゃんだった長男のベンジャミン、そして私が成田空港に到着して初めて日本の土地に足を踏んだのは、2021年2月22日がその日の40周年記念日でした。実は、私自身はこのことを忘れていました！ 友達から、日本宣教赴任40周年、おめでとうとのメールが届いて思い出したのです。私の性格ですと、今取り組んでいる仕事に熱中になり、他のすべてを忘れてしまう癖があります。でもやはり、私たちにとって記念すべき日でした。でもそれとともに、自分の寿命がどれだけ残っているかとも思うことになります。神様は私の人生においてどれだけのみわざをなされたのか、自分の実績はこ

れで良いのか、社会と教会が今どうなっているのか、感謝すべきこと、気になること、残った人生をどう費やすべきか、いろいろ思われます。

このように思い巡らしていると、ついにヨシュアのことを考えるようになりました。私自身の経験や実況は多少、これに似ているのではないかと思いました。つまり、彼の人生の終わりが近づいてきていた、その状況のことです。

- 1、 ヨシュアの歩みを復習しよう。（およそBC 1,475年—1,365年）
 - イ、 出エジプトの出来事で青年、主のしもべモーセの従者、召使である。
 - ロ、 約束の地の偵察作業の際、主の道を勧めるが、民は背く。
 - ハ、 モーセの後継者となる。
- 二、 約束のカナンの地の取得と分配に成功し、イスラエルを率いて主の道を立派に歩む。

ヨシュアはおよそ紀元前1475年にエジプトで生まれ、紀元前1365年に、110歳で天に召されました。その人生を簡単に確認しましょう。

神様がエジプトの奴隷となっていたイスラエルの民をそこから導き出した時にヨシュアは青年でした。主がエジプトに下した災害、過越の出来事、紅海に通る道が開かれて向こう岸に渡った出来事を経験しました。先祖ヨセフの子、エフライムの氏族で、民数記11章28節によると、「若い頃からモーセの従者であったヌンの子」です。もともと、ホシエアという名前でしたが、モーセが彼をヨシュアと言う愛称をつけたそうです。それはギリシア語に直すと、イエスという名前です。「主は救い」という意味です。いくらかイエス様に似ている側面が確かにある人物です。

民数記13章で、モーセが12部族から一人ずつ選び、カナンの地の偵察に当たらせることが書いてありますが、その時、ヨシュアがエフライム部族の代表です。12人の中で、ユダ部族のカレブとヨシュアは大変良い報告をして、すぐに攻め上って約束の地を取得するように勧めますが、他の10人からとても無理であると悪い報告があって、イスラエルの民が主の御心に背くことになりました。

その後モーセが召される日が近づいた時に 神様に命じられて、ヨシュアを自分の後継者に公的に任命します。民数記の27章に記されています。

ヨシュア記において、ヨシュアがどのように民を率いてヨルダン川を渡り、原住民のカナン人、アモリ人を征服して、約束の地を取得して、イスラエルの12部族の民に土地を分配することを語っています。これは神様が先祖のアブラハム、イサク、ヤコブに約束された嗣業の地です。ヨシュアは神を愛し、畏れて、いつも神様の命じるところに忠誠を尽くして行い、これに背いたことが一度もありません。本当に立派な方です。

- 2、 110歳の高齢者として、お別れの前、民を招集し、主との契約更新を執り行う。
 - イ、 シェケムで集まるのは2回目。その場所の意義を確認しよう。
 - a. アブラハムに約束された地の最初の礼拝の場所、ヤコブも滞在、ヨセフの墓場。
 - b. 民の全体を集め、主との約束を再確認する場所と指定される。
 - c. イスラエル王国の大事な都会、サマリヤ人の聖地。
 - ロ、 主が約束を全て果たしてくださったことを確認し、民が自分の約束を守るかを問う。
 - ハ、 民の行動次第、祝福と呪い、両方の可能性がある。
- 二、 ゲラジム山とエバル山、祝福と呪いを象徴的に語る。

年月が重なり、ヨシュアが高齢者になっていきます。その寿命は110歳となることが書いてあります。そこで、23-24章では特別なことが書いてあります。自分の人生の終わりが近くなっていることを理解すると、イスラエルの民をシェケムの町に招集して、神様との約束事を再確認する儀式を行います。「契約更新式」と言います。

ここで読む契約更新の出来事は実は2回目です。ヨシュア記の8章30-35節に第一回が記されています。このように行いなさいとモーセが申命記の11章と27章で命じています。どうしてシェケムでするのでしょうか。イスラエル人にとって特別な意味があるところだからです。創世記12章6-7節では、ここでは神様に召命されたアブラハムが初めて自分の嗣業の地になるとの約束を神様からいただき、初めて、神様の礼拝所として定め、生け贄を捧げる祭壇を築きます。創世記33章によると、アブラハムの孫に相当するヤコブもしばらく滞在したとなっています。ヤコブの子ヨセフが兄達に嫌われて、通りかかる商売人に奴隷として売れ渡される出来事がここシェケムで起こりました。しかし今は、ヨセフの願い通り、エジプトからその遺骨が運ばれてここシェケムで葬られています。

既に確認しましたが、神様ご自身がこのシェケムで契約更新を行うようにお命じになりました。神礼拝の大事な場所であるわけです。このことを受け継いだ、新約聖書の時代のサマリヤ人はこれをこのまま、神様の礼拝すべきところであることにこだわっていますね。（ヨハネ伝4章を参照）

ヨシュアが命じる今回の集まりの目的な二つあります。第一に、神様がそのすべての約束を完全に果たしてくださったことを確認します。第二に、神様から数々の祝福を頂いたイスラエルの民が これからも忠実にこの主に従い続けるかどうかを問うことです。

彼らの応答によって、さらなる祝福が与えられるはずですが、けれども、そうではない場合は、もし主に背いて掟を捨てて、他の偶像の神々について行く場合は、呪いと刑罰に当たり、災いが降りかかります。どちらになるか、これは彼らの行い次第です。

シェケムについても一つの情報が 있습니다。契約の更新式を行う場合は、民は二つのグループに分かれて、半分は町の南にあるセラジム山に立ち、もう半分は北のエバル山に立つことになっています。セラジム山は緑に茂っているところですが、エバル山はまるで枯れているような命のないところです。式を行うときにセラジム山に立つ民はエバル山にいる群れに対して、従う民に約束される祝福を唱えます。一方逆に、エバル山に立つ民はセラジム山にいる群れに対して、神に背く民に降りかかる災いを述べます。地理的な実態もあって、本当に強力な印象を残します。命を得よ！と叫ぶのです。

3、ヨシュアの驚くべき発言

- イ、ここまで歩いて来たのに、厳しい現実を何回も経験してきた。
- ロ、背く傾向が常にある民の心をどう改善できるか。
- ハ、19節の結論を現実として受け止めるべし。でも、納得はしない！
- ニ、如何にして救われるか、主の恵みしかない。
- ホ、主が備える救いの歴史の大事な時点に立ち止まり、来るべき救い主を待ち望む。

ヨシュアはそこで、最後の説教の中で、民が神様の掟に忠実に従うように説得しようとしています。中に24章15節があります。有名な言葉です。この言葉を習字で書いて家の中のよく目につくところに飾ることができます。民はヨシュアの勧めに対して、「かしこまりました、ちゃんと従います！」と答えます。けれどもここに、ヨシュアから驚くべき言葉が出ます。24章19節です。確認しましょう。

「あなた方は主に仕えることはできないであろう。」 「であろう」という少し曖昧な言葉が付いています。けれども、おの類の言葉は実は原文にありません。新改訳聖書の方が正確です。「あなた方は主に仕えることはできない。」となっています。ドキッとする発言ではないでしょうか。

イスラエルの民はエジプトから救出され、紅海を渡り、シナイ山で律法を授かり、約束の地に導き入れられました。しかしながら、この歴史を読みますと、途中で、つぶやきながら、何回も神様に背くことにぶつかります。シナイ山で金の雄牛の偶像を作り、行ける神に替えてこれらを礼拝します。絶え間なくモーセに反発します。神様の命じる通り、約束の地に入ろうとしない。とんでもない悪しきことであるにもかかわらず、密かに他の神々のお守りを保持し続け、偶像を捨てません。

モーセも悩みました。反逆するイスラエル人の心を一体どうやって改善できるのか、と。

「あなた方は主に従うことができない。」民はこの事実を受け止めなければなりません、同時にこれに納得するわけにはいきません。こうあるべきでない。悔い改めなければならない。変わらなければなりません。

一体どのようにしてこれができるでしょうか。悪を行う傾向からどのようにして救われることができるでしょうか。救いが実現するならば、それはただ神様の恵みによってしか出来ません。

彼らの歴史はいわゆる救済史です。神様が救いを用意してくださる約束の実現に向かっている歴史の大切な時点に来ています。その救いは彼らの行いの実績、彼らの能力、彼らの忠実さによるのではないことがここではっきりしています。すべきことはただ一つです。一方的に彼らに恵みを施し、もう一人のヨシュア、つまり、イエス様を送ってくださる神様の恵みを待ち望むことです。

4、 40年間の信念：救いはイエス・キリストにしかないことにこだわり、イエス様を宣べ伝える。

イ、 生か死か、幸福か不幸か、悔い改めと信仰に呼びかけて、改心に導かれることを期待する。

ロ、 歴史的時点が違うが、課題には変わりなし。

ハ、 主の忍耐と慈愛を感謝して、永遠の祝福を今のうちに受け取るうではないか。

ニ、 5カ年計画が41年目に伸びた。

いよいよ私達スパーリンク家のことを話します。私のすべての奉仕において、ただ一つの目的達成のために働いて参りました。それはイエス様を宣べ伝えることです。すなわち、救いはただこのイエス・キリストにしかないことを。

生か死か、祝福か災いか。どちらになるか。私の日本にいる隣人たちに呼びかけて、悔い改めて信じるように勧めて、改心するように待っています。つまり、神様ご自身がイエス様に救いがあるとの福音を聞いた人たちの心を新たにしてくださること、彼らをご自分の元へと呼び寄せてくださることを期待するのです。救いはこのお方のわざです。主がしてくださることを信じる信仰によります。

私達の歴史的居場所はヨシュアの時代のイスラエル人とは違います。けれども、課題は少しも変わっていません。今日、私たちにもみことばが耳に入ります。「あなた方は主に従うことができません。」しかし、神様は恵み深いお方です。神様は忍耐を持って私たちにも呼びかけてくださいます。

「主イエス・キリストを信じなさい。そうすれば救われます！」今 提供される主の賜物を受け取るがよいのです。永遠の祝福の恵みの贈り物です。赦し。命。永遠の住処。

私たちが40年前日本に来た時は5年間の滞在のつもりがあり、その後は北米に戻ってどこかの教会で奉仕するつもりでした。けれども今が日本宣教の41一年目です。神様の導きがあっようになっていきます。「もうちょっと頑張りなさい」がみ心だと信じています。またそう決心しています。

決論： 自分のことを大袈裟に評価しないけれども、一滴、一滴がついに海となることを信じて、今後ともども励みたいです。小さじのスプーンしか道具がなくても、サハラ砂原を移すことができると信じます。からし種の信仰こそあれば、山が動き出して海に移ります。これは私についても皆さまについても真実です。主の憐れみを信じつつなす忠誠ある、忠実な行動があれば、み国が力強く現れます。主の恵みこそあれば、主に従うことができると確信します。この日本もキリストの国となる。